

令和元年度第2回向日市障害者計画策定委員会 会議録

- 1 日 時 令和2年2月10日(月)午後1時30分から午後3時15分まで
- 2 場 所 向日市福祉会館 3階 大会議室
- 3 出席者 (委員) 15名
拾井委員(委員長)、堀委員(副委員長)、梅山委員、山本委員
因幡委員、久保川委員、稲葉委員、井上委員(乙訓ひまわり園)
植田委員、宮川委員、井上委員(乙訓保健所)、吉田委員
能塚委員、三宅委員、桶谷委員
(事務局) 6名
水上市民サービス部長、川本副部長
長谷川課長、山中係長、吉尾主任
(傍聴者) なし
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児福祉計画に係る障がい者
実態把握調査の調査結果について
 - イ その他

【概要】

(1) 開会

(2) 議事

第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児福祉計画に係る障がい者実態把握調査の調査結果について

事務局から第6期向日市障がい福祉計画及び第2期向日市障がい児福祉計画策定のためのアンケート調査について、調査結果の報告を行った。

<意見の要旨>

<委員>：アンケートの対象者及び回答者の状況が分かりづらい。

<事務局>：報告書では具体性に欠ける部分があるため、計画では分かりやすく表記する。

<委員>：各種手帳の所持状況は、それぞれの障がいに該当する者のうちの所持者数か、そう考えると取得できていない者が多いのではないか。

<事務局>：アンケート回答者全員のうちの所持者数となっており、18歳以上では身体障害者手帳を、18歳未満では療育手帳を所持する者が多いため、回答結果には特定の傾向が表れている。

<委員>：該当する障がい種別の結果が年代別で表記されており、傾向が分かりやすい。

<事務局>：計画でも同様に表記する。

<委員>：福祉サービスの利用状況、利用意向は障がいの内容によって回答内容が全く異なってくるため、回答総数に対する割合では、正確な傾向が把握できないのではないか。

<事務局>：計画では手帳別、年齢別などの集計結果を用いてより正確な傾向が把握できるようにしたい。

<委員>：障がいに対する理解について、18歳以上と18歳未満で回答結果に異なる傾向が表れている。

また、18歳未満では前回アンケートと比較して否定的な意見が大幅に増えており、その原因については、分析が必要なのではないか。

<事務局>：分析していく。

<委員>：成年後見制度について、利用者、希望者ともにまだわずか。

市として利用促進のため、どのような取組を進めているか。

<事務局>：市としての取組は広報紙での周知程度に留まっている。

制度の良い部分だけでなく、実際に利用した際の使いづらさなどもきちんと説明した上で理解を広めていく必要があると考えている。

<委員>：放課後等デイサービスが増えていることはありがたいが、福祉人材が不足しているという声を聞く中で、サービスの質について、どのように担保されてい

るのか不安を感じる。

<事務局>：利用者、事業者など関係者から乙訓圏域の事業所について、問題があるという声は聞いていない。

また、放課後等デイサービスの指定権者である京都府においても適切に指導していただいている。

<委員>：自立支援協議会で福祉人材の研修を実施しているが、放課後等デイサービスの事業者の職員の参加は多い。

<委員>：事業者向けの利用状況調査で計画相談支援及び障害児相談支援の「定員」の数はどのように算出されているのか。

<事務局>：手元にデータがないため、確認して報告する。

<委員>：アンケートの中で自由記述欄があったが、報告書にはそれらの回答内容が掲載されていない。

<事務局>：様々な意見があり、また、多くの個人情報に記載されていることもあり、整理するために時間を要する。

今後、なんらかの形で報告させていただく。